

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0015
東京都東大和市中央1-539-15
http://www.yumuyu.com/
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create, TOHOKU!

2023年(令和5年)4月16日 日曜日

無料

第131号

毎月発行

発行 2023年(令和5年)4月16日 日曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、69歳の新人歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】の大崎上映会は延期。乗っ取りのいえ新4作目制作に歴史を研究。埋もれた東北文化を掘り出すことを標榜。



【ついに大谷翔平はWBCで世界一に！】

東北出身の大谷翔平・ダルビッシュ有・佐々木朗希が WBCで世界一になった《SAMURAI JAPAN》をけん引！

東北出身三選手がWBC優勝をけん引

世界の野球の頂点を決める国別対抗選手権であるWBC(ワールドベースボールクラシック)でサムライジャパンが十四年ぶりに世界一になった。



MVP表彰の大谷翔平・・・TV画面より

これは、野球選手個人として世界の「頂点」に立ったということの意味する。

それだけではない。岩手県奥州市出身の大谷翔平選手、東北出身といってもよい宮城・東北高校出身のダルビッシュ有投手と岩手県陸前高田出身の佐々木朗希投手も大活躍したのが今回の大会だった。



《SAMURAI JAPAN》表彰台・・・TV画面より

もつといえ、東北の三人の野球選手たちが世界一になったのである。

これら三選手の日本での活躍だけでもすごいことなのに、日本を突き抜けての世界一である。ほんとにすごいことである。

今回のWBCは著名選手が集結した大会

第一回目のWBCは2006年。その第一回と2009年の第二回に優勝した日本だったが、その後は優勝からずっと遠ざかっていた。

当新聞でも何度も東北出身の野球選手たちを取り上げ、応援してきたが、うれしいことこの上ない大会となった。

大谷選手のジャパチームへの一喝

最後のアメリカとの決勝戦に臨んで、大谷選手が他の日本チームの選手たちにかけた言葉が印象的だった。その言葉が勝利につながったのかもしれない。

サムライジャパンの選手たちももちろんプロ野球選手ではあるが、彼らがあこがれ、羨望のまなざしで遠い日本から見つめてきたアメリカチームのMLBの選手たちに対し、「憧れるのをやめましょう」と言い放ったのだ。

優勝戦の前に控室で組んだ陣の陣の声出しは、今大会でも大きな活躍を見せている大谷選手だった。

そこで大谷選手は「僕からは1個だけ。憧れるのをやめましょう」とすっぱりとひとことだけ。おそろくこのひとことで、眼が覚めた選手もたくさんいたのではないかとと思う。



大谷翔平・・・エンゼルス同僚トラウトを三振で打ち取りWBC世界一の瞬間・・・TV画面より



まるでピッチングコーチのようなダルビッシュ・・・日刊ゲンダイ

勝戦までできたので十二分に満足ではないか？自分たちの実力以上のものを出せたのだから、これ以上何を望もうというのか？そんな風にとどこかで思っていた選手たちに「喝」を入れたのだ。

いつもMLBで闘っている大谷選手だからこそ、日本だけで試合をしている選手たちの眼に「あこがれ」と「羨望」の色が浮かんでいるのを見て取ったのである。ドリームチームのアー

メリカと戦えるという「夢心地」から、アメリカと闘って勝つ選手たちへと変身させた言葉だったのだ。

そして、決勝戦の最中も、大谷選手は気迫あふれるプレーでサムライジャパンを鼓舞し続けた。

「ワンチーム」に仕立てるダルビッシュの努力

闘うチームに仕立てたのは大谷選手だけではない。WBC予選は三月九日の中国戦から開始されること

が決まっていたが、その前に国内で合宿が予定されていた。

その合宿初日の二月十七日からメジャーリーガーであるダルビッシュが参加したのだ。

そのことに周囲は驚いた。ダルビッシュが所属するMLBのパドレスがそんなに早くからの合宿を許さないだろうと思っていたからである。しかし、ダルビッシュは所属チームを説得して合宿初日から参加した。

チーム最年長右腕が、さつそく行動で自覚と責任感を示した形となった。

ダルビッシュはそのとき以下のように語っている。

「久しぶりの日本というのもあるし、日本の選手たちとの関係がないので、なるだけ仲良くなりたいというのもある。以前はこっちに住んでいた時期もあったので、恩返しではないけどそういう思いもある」と。国内勢の選手たちと汗を

流し、一緒に食事を取り、コミュニケーションも取った。変化球についての相談を受けると、練習ですぐさまレクチャーした。

「アドバイスと言うとちょっと上からだと思うんでお互い意見交換しながら」と若い選手に技術と知識を惜しみなく伝授した。

そうしたこともあり、合宿中はダルビッシュの元に国内勢の選手たち、特にピッチャー陣がいつも集まって、まるでコーチが選手を指導すると見間違えような光景が頻繁に見られた。

これもすごいことだ。後輩とはいえ、将来に敵になるかもしれない選手たちに惜しげもなくピッチングノウハウを教えるとは。

このおかげで、サムライジャパンは「ワンチーム」となっていたのだ。

準決勝はドラマチックすぎた

メキシコとの準決勝もドラマチックすぎた。

WBC予選中から準々決勝まで不振だった昨年の日本野球界の最年少三冠王の村上選手がいきなりの大活躍をしたのだ。

四対五で負けていた九回無死一二塁で、不振の村上宗隆選手が登場。だれもがこれで日本は準決勝で敗退と覚悟した。

しかし中堅フエンス直撃の逆転サヨナラ二塁打を放った。この劇的勝利に米メディアも感嘆した。

この試合は七回にも、三塁点負けたところに、吉田正尚選手が起死回生の同点3ランを放ったというドラマがあった。

まさにドラマに次ぐドラマだった。

まるでマンガのような決勝戦エンディング

準決勝から続いたドラマはこれで終わらなかった。決勝戦は最初から非常に緊迫していた。

日本側の投手陣の締めくくりはだれがするのか、まさか大谷かなどありえないだろうと誰もが思っていた。

しかし、何と、締めくくりの一番手がダルビッシュ。皆が驚いた。

一点取られたあと、次の締めくくりの投手として大谷が準備していた。

これには皆がさらに驚いた。先ほどまで指名打者としてベンチにいたはずの大谷がブルペンとの間を行き来している。

そして最終回にマウンドに上がった。

迎える最終バッターがエンジェルス同僚のトラウト。夢のような対戦で、フルカウントの末、見事三振に打ち取るというマンガでもありえないような締めくくりで勝利したのだ。

まさにドラマ尽くしのWBCジャパン優勝だった。



優勝して抱き合うダルビッシュと大谷



決勝戦リリーのダルビッシュ・・・TV画面より



チェコ戦の佐々木朗希・・・TV画面より



日の丸を囲んでの記念撮影



優勝後のインタビュー・ダルビッシュ



優勝後のインタビュー・大谷



栗山監督を囲んで



劇的な逆転に喜ぶメキシコ戦



メキシコ戦後のインタビュー・村上



シャンパンファイト・・・ダルビッシュ



シャンパンファイト・・・佐々木朗希



決勝戦最後のバッター・トラウト・・・TV画面より

東北被災地への移住促進施策の最前線取材(3/18)

宮城県東松島市主催の「ひがまつ暮らししてみナイト」参加



堅苦しくなく、くだけた雰囲気で行進

東日本大震災で被災した宮城・東松島市の移住促進イベントに参加

たまたま知り合いの紹介もあり、東日本大震災で被災した三陸沿岸部地域というところもあり、筆者の郷里に近く、さらに都内での開催でもあったので、宮城県東松島市の移住促進イベントに参加してみた。

当新聞でもこれまで、人口減少地域への移住問題を何度か取り上げているので、そうした観点からも、最近の移住促進の動向がどんなものかも知りたくて参加することにしました。

以前にもこうしたテーマのイベントには参加したことがあったが、国と県、市町村が一体となった、きわめて「真面目」で型通りの一方通行型のイベントだったので、今回のイベントに

は面食らってしまった。まず、イベント参加者を楽しませながら、堅苦しさを感じさせず、非常にくれた感じで、まるで地元産品紹介イベントに参加しているのではないかと錯覚させるほどの内容だった。しかも有料であり、単に地元素材のサンプル提供にとどまらず、会場となった居酒屋で料理された素材が出てきて非常に楽しめた。まるで、移住に興味のある仲間が集った飲み会に参加したと思わせるようなイベントだった。

ここには主催者側の工夫があり、数々の「芳しい結果を伴わなかった経験」が活かされていると感じた。

すでに東松島市を知っている人たちが参加

筆者の参加前のイメージでは、東松島市を知らない

人たちが向けるイベントと勝手に思っていたが、実際にはそうではないことが徐々に分かった。

会場には三十人強が集まっており、それぞれが自己紹介したのだが、具体的な移住知識がゼロで、これから移住を考えようという人はほとんどおらず、それどころか、何度か東松島市に行ったことがある人が実際に移住を決断する、移住に踏み切るためのイベントといった印象を持った。

確かに、従来型の国や県市町村一体型とはまったく異なるものであった。

移住した人が司会をするという大胆な試み

司会進行を何人かで担当していたが、その中には実際に移住した人であったり、また別の人の場合は、地元在住者と他地域から東松島市へ赴任した地域おこし協力隊の「隊員」とがカプセルになったケースだったりしたのも驚きだった。

そのため、単に東松島市を紹介するというレベルではなく、実際にすでに移住した人が、東松島市に移住することを決断できずにいる人に移住を決断させる会という様相であった。

SNSによるバーチャル共同体形成

さらに驚いたのは、SNSを活用して、東松島市とのバーチャル共同体のようなものも形成しようという

試みもあったことだ。筆者も、いきなりリアルな移住をPRするより、まずは移住先とのバーチャルな関係を形成していくのが先だと思っていたので、これには大賛成であった。

そうしたバーチャルな関係を築いていけば、自然な形で、移住先に溶け込めるというものだ。

他の地域も、こうした試みにならない、今後の移住促進がより効果を上げられるようにと願う。

これからの共同体の形

今回のイベント参加で、東松島市のようなケースを体験できたのは非常に参考になった。

こうした試みを推進している地域ならば、移住してみようと思う人も増えるかもしれない。

しかし、何よりも、地元をじっくりと知ってもら



イベント内容



地元産生ガキ



地元特産わかめとポテトスティック



地ビールも提供



デザート付き



地元産肉のロースト

東松島市のようなケースを体験できたのは非常に参考になった。

こうした試みを推進している地域ならば、移住してみようと思う人も増えるかもしれない。

しかし、何よりも、地元をじっくりと知ってもら

ために、バーチャルな共同体住民となって、さらに地元を深く知り、人的なネットワークも形成していくというじっくりと構えた方向が良いと思った。

実際に移住しないとしても、その地域との関係性を維持していく人がどんどん

増えていくと、単に、地元住民と移住民という二つのカテゴリーだけでない関係が構築されていくだろう。そして、今後のトレンドとして多様な共同体の形が出ていくことであろう。

「臺」に住む「仙」ならぬ男の 環境問題を語る資格の事



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かって立ち読みを始める東北好きである。

昔東京に住んでいた頃にバイク便をしていた際、同年某SNSをお互い使っていたと判り交流したところ、その後自然豊かな地域に新居をほとんど自力で建設、薪ストーブまで作ってしまつたという近況に驚かされた。私の住む宮城県でも、知人であるイラストレーターの方がアトリエギャラリーを仙台市街から森林の中へ移し、これもご夫婦でかなりの部分を自作・整備してきた経緯を思い返し、片やようやく街なかの狭いアパートの一室にエアコン

を入れたと言つてその使い方や電気代のやり繰りに腐心している己が身に苦笑い。さて自分はこれまででいい日々を送る昨今である。私は恥ずかしながら現状の生活を維持するのがやっとの状態で、その生活スタイルは東京郊外などのそれと大差はないが、私自身は森の中に家を自分で建てたり、薪を割って暖を取ろうという願望を、全くとは言わないが決して強くは持つておらず、むしろ自分は都市生活が向いていると心底思い込んでいた。最近、ソロキャンプームが興ると反比例して、野営で焚き火する興味も文字通り下火である。

朝一夕では現出しない事から、仙臺とは常に住民が努力し追究してこそ実現できる意味を含めた志高い地名であると言えらる。一見ファンタジックなイメージの仙人なる概念だが、一方で何らかの技能や学術を極めた達人をも意味する事を思えば、人間が今後の未来に向けて如何に変化していくのか、一体どこへ向かっていくのかがますます問われる現代においても、決して埃を被る事のない哲学、そして現実の理想の人間像・ヒーロー像として新たに輝く可能性を感じる。そのような随想の中で、ある一人の東北出身女性の行動力に富んだ生き様が連想されてくるのであった。

真のクオリティーも高めなその雑誌のモデルの一人として、彼女は突如私の目に飛び込んできたのだ。その立ち姿を写した一ページには、その制作に携わったスタッフらの名の後に、彼女の名「Lillian」が小さく示されていた。

彼女の横顔は一見して西洋人であるが、昔どこかで会ったような「既視感」を覚えた。そのそばかすの残った佇まいはちょうど『赤毛のアン』の主人公の髪をそのまま漆黒にしたようだと感じたのだが、後にその勘があながち的外れではなかった事がわかる。テレビ出演もこなすタレント性も兼ねたような少数を除く大多数のモデルなる職業人は、主にその美や個性に彩られた容姿のみを商品とする極めて謎めいた存在であるが、私は何かのきっかけでこのリアンと名乗る女性が青森県八戸市の出身で、北海道札幌市に住みながらモデル活動している事を知ったのである。

私の驚きは、案外に大きなものであった。まさか、他ならぬ東北に縁のある人物とは思わなかったからだが、更にはその西洋的な容姿が、スコットランド人である父を持つ故と知り二重の驚きに見舞われたのである。よく知られるように、赤毛のアンはスコットランド系カナダ人の設定であり、殊のほか現地に思い入れの深い私はその身に纏うケルトの香りを感知する事ができたという事だ。その父にはドイツの血も流れており、現在は八戸出身の母親と札幌に住んでいるとの事で、とにかく骨の髄まで「北方の人」であるという事も認識できたのだ。

さて、札幌にて姉とともにモデルオーディションの機会を得たリアンは冷涼な透明感を持つ独特の雰囲気、高品質なファッション媒体にて地道に活躍、私がある存在を知ったのは彼女が十九歳の頃のことだが、間もなくその活動拠点が東京へ移る事を知る。彼女のメディアへの露出はテレビなどの映像媒体ではほとんど無いが、ファッション誌を越えてアウトドア誌にも登場し、北海道の山岳から沖縄の島々まで自然環境への旅を趣向する事もそのインタビュで示された。インターネット上のブログでは郷土青森の県立美術館や大規模な事で知られる八戸の館岸壁朝市で楽しむ様子も見られ、私もコメントで数回彼女とやり取りした事があった。

しかしそれから間もなく東日本大震災が起こると、東京での原発抗議デモに参加した事を写真付きで公表し、程なくしてブログを閉鎖し、その後モデル活動ごと休止するに至る。一体、リアンに何が起こったか？しばし、消息を聞くことなく過ごした数年後のある日、私は彼女が「小野りあん」というフルネーム名義で、再びネット上の発信を始めていた事を知るのである。彼女は、デンマークに短期留学し、国際NGOにも参加、また世界に広がる旅を続けていた。地球環境の危機的状況の実態を学び、世界中の人々に会い議論を深める為。

リアンは、実に八歳にして環境問題に関心を抱いていたという。母親が環境保護運動に携わっており、また幼少からアイヌ民族の友人家族と交流し、自身の自然環境への感性と問題意識を育んでいた。二〇一八年からのスウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリによる気候変動に関する抗議運動のインパクトがリアンのその後に大きな影響を与える事になる。グレタ同様に二酸化炭素排出量の少ないライフスタイルを模索、航空機を使わない世界旅行を敢行し、シベリア鉄道でロシアまで、そしてその後ドイツやスペインへ至る各地で環境運動を展開する活動家や専門家に会い、活動の困難さ・課題に触れ、国連の気候変動会議にも参加。見識を深めた末にメキシコからは貨物船で帰国したという。その後国内の社会変革を志向する若者らのコミュニティ作りなどに奔走し、俳優やアーティストらも参加する気候変動対策の改善を訴えるストライキ集会の主催なども務めている。かのキング牧師の言葉「最大の悲劇は悪人の残酷ではなく、善人の沈黙だ」を、一連の旅や活動の中で現代でこそ実感できるという彼女の言葉は印象的である。



リアンによる旅の随想録から (ザ・ノースフェイス配信サイトより)



八重咲のウメ



SL 銀河試運転



シュンラン咲く



バツケ (フキノトウ)

シリーズ 遠野の自然
「遠野の清明」
遠野 1000 景より

わずかこの一か月間で写真から見える遠野の景色が一変した。
長い冬がようやく終わり、ずっと待ち焦がれていた春が遠野にやってきたようだ。そこには生気があふれかえっている。生命力が満ち満ちて来て、こちらも心が躍るようだ。それとともに四季変遷のダイナミズムも実感する。東京では桜の開花のみを通して静かな春の到来を感じるだけだが、春を迎えた遠野ではあらゆるものが、このダイナミックな四季のエネルギーとともに大きく動き始めたのを感じるのだ。
遠野の春は、冬の間委縮していた身体も心も解き放つ季節である。



ミツバツツジ



コブシ咲く



クロモジの花



アズマイチゲとキクザキイチゲ

【新シリーズ・三陸酒海鮮会】の開催ご報告と今後のお知らせ

第51回はリピート開催・・・十四代と新政が飲める【むさし乃東神田店篇】
また、『三陸ANNEX十条』開催、第52回は4/22に予定、5月以降は企画中

【基本方針】

- ① 会は原則として、月一回開催といたします
- ② 毎回会場を変えての少人数開催といたします。
- ③ 今後は、当面の間、毎回、「割り勘」を基本とした料金でお願いいたします。

第51回三陸酒海鮮会 【むさし乃東神田】 篇・・・「十四代」「新政ラストラピス」「新政NO.6」
ほか



集合写真



十四代



新政 NO.6



新政ラストラピス

三陸酒海鮮会 ANNEX 【サケラボ】十条篇
2022・4・9(日) 19:00～22:00

第52回三陸酒海鮮会 【樽一】新宿篇
2022・4・22(土) 17:30～20:30



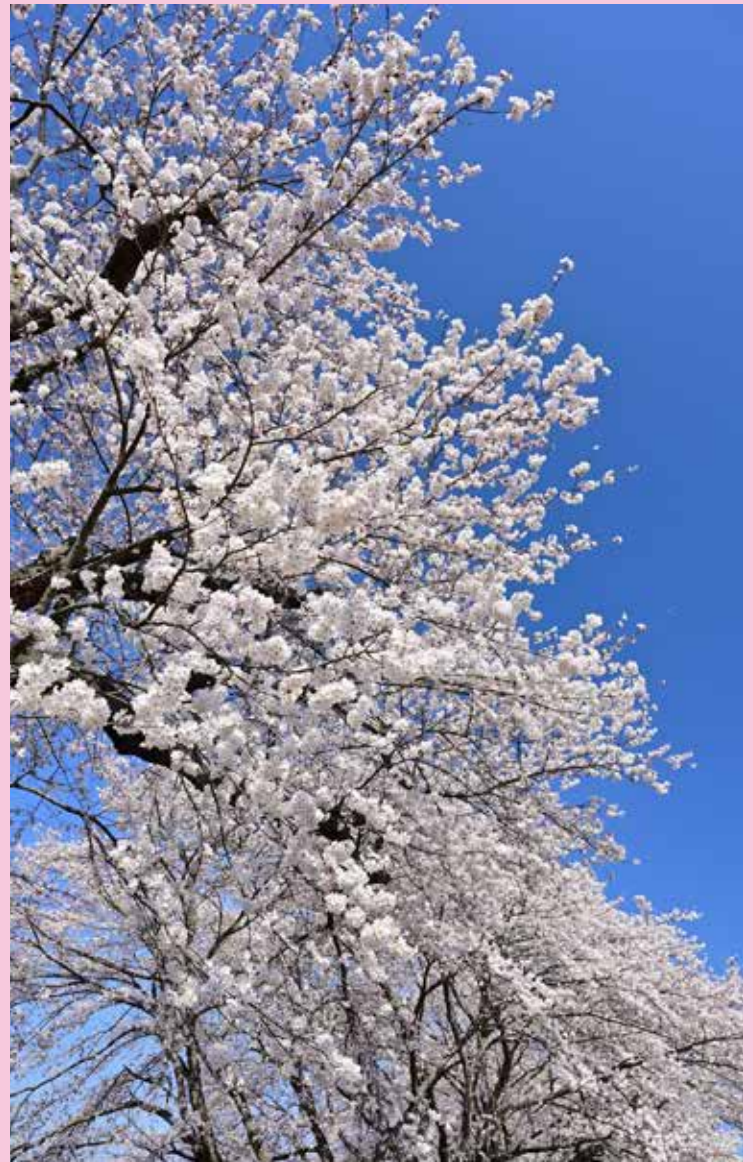
日本酒棚

ささまさわね	福島	無想	新潟	太平洋
飛騨	福島	手取川	石川	東洋美人
金水島	福島	墨田江	宮城	加茂錦
仙蔵	栃木	裏山流	山形	上賀元
雲男	新潟	楽正京	福島	愛宕の松
九國	福井	薄菊	千葉	義快
雲の舞	秋田	みむろ杉	奈良	天美
新蔵	石川	田舎	青森	群馬泉
ハツキソク	福島	日高見	宮城	大倉
純土	和歌山	天青	神奈川	磯自慢
日輪田	宮城	五川	京都	武勇
一日水成	秋田	菊水	新潟	山本ど幸

当日のラインナップ



クジラ刺身盛り合わせ・・・イメージ



写真でお伝えする
東北の風景

**白石川堤
一目千本桜
(宮城)**

写真撮影 尾崎匠

